

令和6年3月31日

令和5年度 特別の教育課程の実施状況等について

茨城県		
学 校 名	管理機関名	設置者の別
鹿嶋市立中野西小学校（外 10 校）	鹿嶋市教育委員会	公立

1. 特別の教育課程を編成・実施している学校及び自己評価・学校関係者評価の結果公表に関する情報

学 校 名	自己評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等	学校関係者評価結果の 公表ウェブサイト名・URL 等
鹿嶋市立中野西小学校	<a href="http://www.kashima.ed.jp/~nakanowel/★01_学校紹介/">http://www.kashima.ed.jp/~nakanowel/★01_学校紹介/</a> 特別 の教育課程の編成について	<a href="http://www.kashima.ed.jp/~nakanowel/★01_学校紹介/">http://www.kashima.ed.jp/~nakanowel/★01_学校紹介/</a> 特別の 教育課程の編成について

2. 特別の教育課程の内容

（1）特別の教育課程の概要

これからの時代において必要とされるグローバルな視野を持った人材を早期から育成するため、小学校第1学年及び第2学年の生活科20時間を外国語活動に替えて実施する。

（2）学校又は地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は常陸国一の宮鹿島神宮の門前町として栄え、発展してきた。また、2002年にはFIFAワールドカップの会場地となり、2021年には東京オリンピックサッカー競技が開催された。歴史的伝統とスポーツによる活力あるまちであり、これまでも「子どもが元気 香る歴史とスポーツで紡ぐまち 鹿嶋」を本市総合計画における将来像に掲げていた。世界の人々とのコミュニケーションをとおして、本市の魅力を世界に発信していくことができるグローバルな人材育成をより一層推進することが、本市の発展と教育活動の充実に必要であると考え、教育課程の特別措置申請を行うこととした。

（3）特例の適用開始日

2007年4月

2018年4月 変更

（4）取組の期間

2030年4月まで

### 3. 特別の教育課程の実施状況に関する把握・検証結果

#### (1) 特別の教育課程編成・実施計画に基づく教育の実施状況

- |   |
|---|
| <input checked="" type="radio"/> 計画通り実施できている<br><input type="radio"/> 一部、計画通り実施できていない<br><input type="radio"/> ほとんど計画通り実施できていない |
|---|

#### (2) 実施状況に関する特記事項

#### (3) 保護者及び地域住民その他の関係者に対する情報提供の状況

- |  |
|--|
| <input checked="" type="radio"/> 実施している<br><input type="radio"/> 実施していない |
|--|

#### <特記事項>

#### (1) 第1学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
75.0 %	12.5 %	12.5 %	0.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかというと話せるようになりたい	どちらかというと話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
75.0 %	25.0 %	0.0 %	0.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかというと知りたい	あまり知りたくな	知らなくてよい
100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

(2) 第2学年児童による評価

① 外国語活動の時間は、楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
83.3 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %

② ALT と英語で話したり活動したりするのは楽しいですか。			
楽しい	どちらかというと楽しい	どちらかというと楽しくない	楽しくない
83.3 %	0.0 %	16.7 %	0.0 %

③ 英語を話せるようになりたいですか。			
話せるようになりたい	どちらかというと話せるようになりたい	どちらかというと話せるようにならなくてもよい	話せなくてもよい
83.3 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %

④ 外国のことをもっと知りたいですか。			
知りたい	どちらかというと知りたい	あまり知りたくない	知らなくてよい
83.3 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %

(3) 教職員による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
80.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
80.0 %	20.0 %	0.0 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活、習慣、行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
60.0 %	40.0 %	0.0 %	0.0 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 早くから外国語に親しむことはとても有意義なことである。</li> <li>・ 英語にふれる機会を多くもつことにより、英語や異文化に慣れ親しむこと。</li> <li>・ 英語で何かを表現して、伝えることができたという経験をたくさん積むこと。</li> <li>・ 英語の音声に慣れること。</li> <li>・ コミュニケーション能力の向上。</li> <li>・ 異国文化交流。</li> <li>・ 外国語に慣れ親しむことで、学年が上がった時に、抵抗なく自然と会話できるようになること。</li> <li>・ 楽しみながら、活動できること</li> <li>・ 英語の音に慣れること。歌やゲーム、ALT とのやりとり等で、繰り返し同じ単語やフレーズを聞いたり、真似したりすることで、楽しみながら慣れることができれと思います。英語の音に慣れると、その後の英語学習での抵抗感を減らすこともできると思います。</li> <li>・ 英語を沢山聞かせること（言葉の習得は聞くことが基本だから）。</li> </ul>	

#### （４）保護者による評価

① 第1学年からの外国語活動の実施は、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成につながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
71.4 %	28.6 %	0.0 %	0.0 %

② 第1学年からの外国語活動の実施は、英語に慣れ親しむことにつながっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
100.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %

③ 第1学年からの外国語活動の実施によって、外国の文化（生活，習慣，行事等）に対する興味・関心が高まっていると思いますか。			
思う	どちらかというと思う	どちらかというと思わない	思わない
14.3 %	71.4 %	14.3 %	0.0 %

④ 第1学年及び第2学年からの外国語活動に期待することは何ですか。 (自由記述)
<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し喋れるようになったらいい。</li> <li>・難しくなく、楽しく簡単に覚えられる。</li> <li>・外国の文化を知ること。ALTはもちろん、外国の子供たちとリモートなどでつながるなどの体験によって、外の世界との繋がりや実感が持てるようになること。</li> <li>・外国語に興味を持ち好きになってもらいたいです。</li> <li>・まずは興味を持ち楽しく学べるのが大事だと思います。高学年や中学生になってから、自分は授業で発声することに自信がなく恥ずかしいと感じたことを思い出しました。低学年のうちに、発声することに慣れることは大切だと思います。</li> <li>・外国語に興味を持ってくれること。</li> <li>・外国語を話せる様になること。</li> </ul>

#### 4. 実施の効果及び課題

(1) 特別の教育課程の編成・実施により達成を目指している学校の教育目標との関係

<ul style="list-style-type: none"> <li>・外国語の発音に慣れ親しむことができる。</li> <li>・体で表現するなど、楽しみながら学習できる。</li> </ul>
--

(2) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声と日本語の意味を結びつけることが難しい。</li> <li>・スモールトークでは、既習の表現を上手く活用できないため、会話の継続が難しい。</li> </ul>
--

#### 5. 課題の改善のための取組の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・音声とイラストを関連づけたカード等を示すことにより、音声と意味を結びつけた指導をする。</li> <li>・イラストと関連づけた既習の表現を教室に掲示することで、必要に応じて活用できるようにする。</li> <li>・パフォーマンステスト前には、既習の表現を確認し必ず使用するようにする。</li> <li>・デジタル教科書を活用、自分の聴き取りやすい速度に変えてリスニングを行うことで、個に応じた指導を行う。</li> </ul>
--

